

研究・調査報告書

報告書番号	担当
548	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Prevalence of alcohol consumption related disorders in a prison population convicted of crimes against road safety. 服役中の交通犯罪者のアルコール摂取関連疾患有病率	
執筆者	
Monras M, Aparicio A, Lopez JA, Pons I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Actas Esp Psiquiatr. 2011 May-Jun;39(3):163-7.	
キーワード	
交通犯罪者、アルコール摂取関連疾患 有病率	
要 旨	
目的： アルコール摂取は主要な交通事故の原因であり、これを防ぐため厳密な法律が制定されたにもかかわらず、飲酒運転により法律を犯し服役する者がまだいる。そこで本研究では、これらの交通事故加害者が機会飲酒者なのか、飲酒習慣の修正が困難なアルコール依存症者なのかを調査した。	
方法： 横断研究にて、2か所の刑務所の受刑者50人を対象とし、アルコール摂取習慣と犯罪歴、精神病理学的背景について調査した。	
結果： 対象者のうち88%がアルコール依存症もしくは他の薬物使用者だった。精神病理学的兆候は、対象者の10%でみられた。全体の72%に犯罪歴があり、半分に暴行歴があった。彼らは社会的適合者で、スペイン人(86%)で安定した仕事と家族を持っていた(76%)。	
結論： 交通犯罪におけるほとんどの受刑者はアルコール依存症で、そうでない者はほとんどなかった。彼らのアルコール摂取は他の犯罪を引き起こし、再発と社会的排除を回避するための治療が必要である。	